

浮世絵で学ぶ お江戸子育て

1986年から子ども文化の研究のために、子どもに関連する浮世絵や歴史史料の収集と研究を続けている公文教育研究会。
広報の吉澤 明さんに、浮世絵から読み取れる江戸の子育て事情を教えてくださいました。



七五三

子どもの成長を祝い、
長寿を願う七五三

現在では、よく神社や写真館で微笑ましい親子連れの姿を見かけます。日本では子どもが生まれると「お七夜(命名)」、「お宮参り」など、幾つもの「通過儀礼」で子どもの成長を祝います。その全ての通過儀礼は「子どもが無事に、そして健やかに育ち、長生きしてほしい」という願いです。七五三もその通過儀礼の一つになります。

七五三の由来は…

七五三の由来は平安時代にさかのぼります。当時、乳幼児の死亡率が異常に高かったため、七歳まではこの世にまだ「命」が定着していない「神の子」として考えられていたようです。そのため貴族や武家の間で子どもが三歳から七歳になるまで無事に成長したことを祝ったのが

御祝七五三源氏の寿

二代 歌川国貞
慶応3年(1867)頃

こちらの浮世絵は二代歌川国貞の「御祝七五三源氏の寿」という作品です。当時の武家の華やかな七五三の様子をご覧ください。大名と思われる位の高い武家の七五三の場面のようです。殿様が松竹梅に鶴が舞う屏風を背にして座り、左側に奥方、前には梅の盆栽や三つ重ねの盃が用意されているのが分かります。右で袴(かみしも)を着て正座している若君は五歳の袴着、その右で奥女中に抱えられている姫君は三歳で髪置き、左手から現れた姉の姫君は七歳で帯解きです。武家を中心に広がりを見せた儀式的様子がみてとれます。

日本の
伝統的な子育て事情を
お伝えすることで
現代の子育てを応援します

KUMON
×
Happy-Note

千歳飴に 込められた思い

七五三といえば「千歳飴」がつきものです。千歳飴の袋を地面スレスレにぶらさげて歩く子どもの姿は可愛らしいですよね。あの細長い紅白の飴や袋に描かれた鶴や亀、松竹梅、高砂などのお目出たい図柄にも、子どもの健やかな成長と長寿の願いが込められているといわれています。

浮世絵カレンダーと展覧会のペアチケットをセットでプレゼント!

「くもん子ども浮世絵カレンダー2022」と「くもん子ども浮世絵コレクション 遊ぶ浮世絵展」(横須賀美術館/開催期間2021年11月20日~12月26日)のペアチケットを抽選で30名様にプレゼントします。下記までハガキで郵便番号・住所・氏名を明記のうえ、お申込みください。当選の発表はプレゼントの発送をもって代えさせていただきます。

宛先: 〒108-0074 東京都港区高輪4-10-18 京急第1ビル12F
公文教育研究会 「くもん子ども浮世絵 七五三」プレゼント係
締切: 2021年11月30日(火)消印有効

